

服忌について

服忌とは、親族が亡くなった際に哀悼の意を表し、祭りに専念する期間を指します。

服

…故人への哀悼を表す期間

忌

…故人を偲び、祭りに専念する期間

服忌の期間

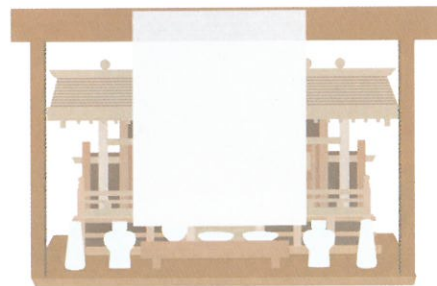
かつての「服忌令」では、服忌の期間が明確に定められており、最長は父母の場合で忌が50日、服が13カ月とされていました。現在では地域の慣習に従うことが一般的で、多くの場合、忌は五十日祭まで、服は一年祭（一周忌）までとされています。

服忌中の神社参拝

忌の期間中は、神社の参拝を控えましょう。やむを得ず参拝する場合には、お祓いを受けてから参拝しましょう。

服忌中の家庭のお祀り

忌の期間中は、神棚の前面に白紙（半紙）を貼り、お祀りを控えます。服忌中に新年を迎えることになった際に、新しいお神札を受けることを控える方もいますが、神棚のお神札は毎年新しいものに取り替えるのが習わしです。年末年始と忌の期間が重なった場合は、忌明け後に新しいお神札を受けてお祀りしましょう。



神道と仏教

日本の葬儀文化の変遷



現在、日本で行われる葬儀の多くは仏式ですが、もともと日本には仏教伝来以前からの固有の信仰に基づく葬儀が存在していました。

しかし、七〇二年に持統天皇の葬儀が仏式で行われたのをきっかけに、その後の天皇の葬儀にも仏教が取り入れられました。中世以降、仏教の隆盛とともに仏式の葬儀は公家や武士の間にも広まり、江戸時代には寺請制度の導入で一般庶民にも定着しました。

一方、江戸時代中期頃から日本古来の葬儀のあり方を見直す動きが始まり、明治時代には神道式の葬儀が公式に認められるようになりました。

神葬祭は、日本固有の葬儀を基盤に整理された儀式で、厳かで儀礼がわかりやすく、また質素な特徴があります。このため、近年では増加傾向にあります。

神道と仏教 用語の比較

神式と仏式では、儀式の内容は似ていても、名称が異なることが多くあります。ここではよく使われる用語を紹介します。

神道		仏教	
年祭・式年祭	▼	法事	
十日祭	▼	初七日	
五十日祭	▼	四十九日	
百日祭	▼	百か日	
一年祭	▼	一周忌	
三年祭	▼	三回忌	
五年祭	▼	七回忌	
十年祭	▼	十三回忌	
三十年祭	▼	三十三回忌	
五十年祭※	▼	五十回忌	

※帰幽から五十年が経つと「祭り上げ（弔い上げ）」となり、亡くなられた方の御霊は清められて、祖先と一体となると考えられています。